

夷森古墳 (えびすもりこふん)

所在地 宮城県加美郡加美町米泉宇小池浦

指 定 加美町指定史跡 平成 13 年 3 月 1 日

概 要

県北最大級の規模をもつ、古墳時代前期の大型円墳です。平成 7 年（1995）から 5 年間にわたり東北学院大学による発掘調査が行われ、造営当時の姿や埋葬施設の構造などが明らかとなりました。

墳丘は直径 46.7m、高さ 7.8m です。頂上部分は平坦で、途中に二段のテラスと呼ばれる平坦面をもつ三段築成になっています。斜面部分には河原石が葺かれ、周囲には幅 20m ほどの堀（周濠）が巡っていました。

埋葬施設は北東から南北に長い、粘土で覆われた長さ 8m ほどの 2 つの割竹型木棺で、頂上部分に石敷きの排水施設を伴う深さ 1.7m ほどの竪穴（墓坑）を掘り、東西に平行して、ほぼ同時に埋葬されていました。副葬品は西側の棺からガラス小玉と管玉の腕飾り、漆塗りの布製品、矢の一部などがみつかっています。

古墳が造られたのは、埋葬施設の構造や出土した土器の特徴などから、今から 1600 年以上前の 4 世紀末頃と推定され、被葬者は初期大和政権の勢力が及んだ最北の地にあって、その一員として、この地域一帯を支配した首長（豪族）と考えられます。

地元では昔から大塚森と呼ばれていたようで、安永 5 年（1776）の米泉村風土記御用書出に「古塚 大塚森 高さ 十一間半 幅九十六間」と記述されています。

